

「葛飾区読書感想文コンクール」を実施しました

葛飾区では、児童・生徒の読書活動を推進するために「葛飾区読書感想文コンクール」を実施しています。

今年度は、小学生4千838点、中学生1千761点の応募があり、小学生18人、中学生10人の作品が入賞しました。各部門の最優秀賞・優秀賞・佳作入賞者は次のとおりです。(敬称略)

■小学校低学年の部

最優秀賞

高橋暖(梅田小1年)

優秀賞

佐藤明景(道上小2年)

小幡優衣(東金町小1年)

佳作

芝本凜(小松南小2年)

鈴木理音(松上小2年)

久原結月(東柴又小2年)

■小学校中学年の部

最優秀賞

佐々木琉気(葛飾小3年)

優秀賞

森春馬(本田小3年)

島津蒼大(柴又小4年)

佳作

小林奈央(葛飾小4年)

中谷由貴(一上小3年)

倉本あおい(松上小3年)

■小学校高学年の部

最優秀賞

永代和奏(東金町小6年)

優秀賞

小出真琴(柴又小5年)

伊藤壮平(中青戸小5年)



■中学校の部

佳作

内尾幸暉(堀切小6年)

角田桃花(道上小5年)

高橋沙奈(中青戸小6年)

最優秀賞

三田悠風(桜道中3年)

優秀賞

佐藤智怜子(金町中1年)

大角奏歩(水元中2年)

増満尚子(水元中3年)

佳作

本間心結(本田中1年)

岩塚心音(奥戸中1年)

平木万葉(亀有中2年)

田中千咲子(常盤中1年)

内田侑冴(新小岩中1年)

自分らしく生きる

桜道中学校三年 三田 悠風

私は、自分のやりたいことや思っていることを口に出したり、行動に移すことが苦手です。やってみたいと思っても、人にどう思われるか、自分なかがやってみようかとかと考えると、なかなか一歩を踏み出せません。そんな私が「ぼくがスカートをはく日」という二冊の本に出会いました。題名にひかれて手にとった私に、この本は勇気と感動を与えてくれました。

三角形を描いて、そのてっぺんに丸を描く。そして、丸の上に半円を描きます。これは、主人公グレイソンのお姫様の描き方です。どうしてグレイソンが図形を描くようにお姫様を描くのかというと、お姫様の絵を描いていることを誰からも気づかれないようにするためです。グレイソンはいつも「秘密」を抱えながら生きているのです。男としてではなく、女として生きたいという「秘密」を。

最近「LGBTQ」に関する報道や「LGBTQ」の人が出てくるドラマをみかけるようになり、私は「LGBTQ」の人の気持ちや悩みに興味をもちました。しかし、本を読むことで「LGBTQ」の存在を身近に感じることができて、その人々を理解するのは難しいと考えていました。そんな

私の考えをこの本は一八〇度かえしました。そして、私が無意識のうちに「LGBTQ」は特別で、自分とは違う人間だと偏見を抱いていたことにも気づかせてくれました。トランスジェンダーであるグレイソンが抱えている悩みは、私を感じている悩みと本質は同じで、どこにでもいる思春期の生徒だと感じたからです。

グレイソンはこの本の中で、何度も自分が「今着ている服がスカートやドレスなら良いのに」と願っています。しかし、そんな感情をクラスメイトに知られたら、きつと受け入れてもらえないと思います。このような、もともと自由に、自分らしく生きたいのになかなかそれを人に言うことができないという感情は私も何度か味わったことがあります。「本当は気がならないけれど、みんな賛成だから」「自分だけ違うことをするのは」「みんなは私をどう見ているだろう」「などと考え、本心を隠して、周りにあわせてしまう。誰もが多かれ少なかれ経験していることでしょうか。つまり、「LGBTQ」のもつ「自分らしく生きたい」という悩みは私たちが抱えている悩みと同じです。

また、私はこの本を読んで、グレイソンから勇気をもらいました。それは、グレイソンが、自分がトランスジェンダーであることをカミングアウトして、自分の着たい服を着たり、自分の気持ちを伝えたりすることが

できるようになったからです。そして、最後には劇で見事に女性の役を演じました。ここまでたどりつくには「女性の役なんてやったら笑われる。でもやりたいんだ。」という葛藤や、クラスメイトからのいじめを乗り越えなければなりません。グレイソンを温かく受け止めてくれる人、認めてくれる人に支えられ、自分らしく生きる選択をすることができました。私はこのグレイソンの強さに感動し、自分もグレイソンのように自分らしく生きたいと心から思いました。

「コナ禍」において「LGBTQ」などの性的少数者が抱えてきた社会制度や差別の問題が浮き彫りになっているという記事を見つめました。無理解な家族や同居人とのステイホームに困難を感じている人や、病院で同性パートナーが家族として扱われるか、入院時に自認する性で扱われるか、望まない形でセクシュアリティが知られてしまわないかなどの不安を抱えている人が多いということです。私は本を読んでから、絶対に「LGBTQ」に肯定的な立場でありたいと思っていたため、このような問題が起こってしまっただけで「LGBTQ」に対して偏見を持っている人が多いのかと思ひ、悲しくなりました。

「LGBTQ」への差別や偏見があるのは、本を読む以前の私と同じ「あの人は普通とは違う特別な人」と